
Catch the eye 2016年9月

2016/9/1 口を嚙ませない
(木)

ようやく朝晩涼しくなってきた。日中、気温は高くても暑さの質も違う。カレンダーを一枚はがし、9月。今月の訓は、『自信こそ勝利の第一条件である』。たしかに気が臆しては闘えない。まずは自分との闘い。今年も残り4カ月、よく闘い、終わりよければ全てよしにしたいもの。

毎朝聴くラジオ。いつも京都FMのアルファモーニング。今年開局25周年で、当所と同じ年数。一緒に年月を重ねてきた。佐藤さんの渋い声が番組全体に安定感。いつもためになる話をいろいろ聞かせてくれる。時々、同じことを考えていると感じること、しばしば。

「沖縄にはまだ行ったことがないんですけど、というもの、沖縄には遊びでは行けないというか、何か心していくところという気持ちがあるんです」。

えー?! 佐藤さんもそうなんだ。3年ほど前だったか、自分の言っていることと同じような話を聞いて、驚いた。似たセンスを感じて番組のファンにもなっているのだが、時代性なのか、文化的背景がどこかで共通するのか、視点や考え方に相通じるものを感じる。

「人生の大先輩にお会いすることがあって、みなさんお若く感じるんですけど、何がそう感じさせるのかと考えて気づいたのが、言葉づかい。みなさん年下の人にも丁寧語で話される」。

そうそう、そうなんです。60代半ばの頃からもう30年以上のお付き合いになるUさん。70代後半の時に不思議に思ったことがある。どうして、「お年寄り」という感じを持たないのだろうと。そうそうたる経歴も控え間に、誰とでも丁寧語で話し、相手の話を丁寧に聴く。

戦争を体験し、政治にも参加し、企業経営をし、人生の大先輩には教えてほしいことがたくさんある。一緒に食事する時、いろいろ尋ねては、そういうもののかと考えさせられたもの。いつか、こう尋ねた。「これまで長く生きてこられて、今しみじみ感じられることは何ですか？」。

「口を嚙むことです」。

えっ?! どういう意味かわからなかった。答えとしては人生訓のようなものが返ってくると期待していた。どういうことか、それは、子供たちを含め回りの者たちが、もはや自分の考えや意見を求めない。口にしようとしても、「おじいちゃんはどういい」と遮られる。なら、口を嚙もうと。

少なからずショックだった。戦中戦後の歴史を生きてきて、新聞は隅から隅まで読み、読書をたやさず、趣味にボランティアに時間を割き、時代の流れや世相の変化に、独自の読みをもつ。未来を読む助けになる知を豊富に蓄えているのに、口と閉ざさせるとは。

年下にも丁寧語で話し、丁寧に話を聴く人生の大先輩には、後輩も丁寧に接し、話を聴かなければ。今日、久しぶりにUさんへ電話してみよう。今ではすっかり「お年寄り」になられた。でも人と成りはずっと変わらない。学ぶことを多し。

2016/9/3か
ら9/5 チェジュ

今年も、旧盆を前に親戚一同でやるお墓の草取り行事に参加。天気に恵まれたが、残暑厳しく、最初の段階で熱中症を心配。ともあれ、無事に今年も終わった。
草取り大変だけど、たのしみは食。チェジュについた夜は、ホテル近くにある人気の刺身店へ。盛り合わせの後は、魚の甘辛鍋。今年もチェジュへ来た感！



9月5日。草取りを終えた翌日の恒例は観音寺へのお参り。3年前の2013年1月以来のご縁。日本で用意してきたお菓子をお供えし、一連の行事を終える。今年も無事に、滞りなく済んだ。



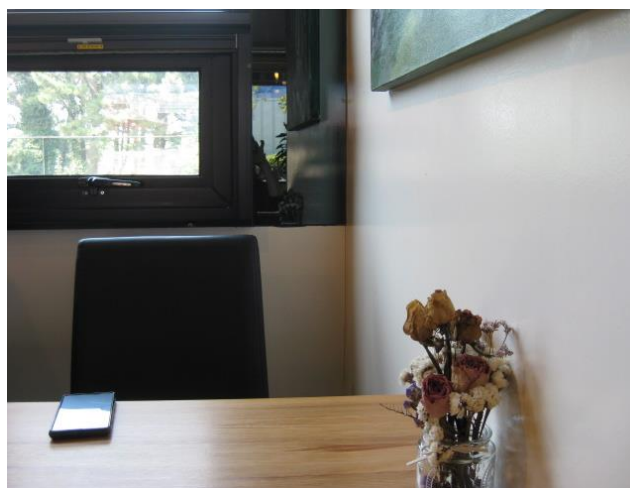
今回初めて気づいた。案内板。「4. 3事件」の際、この観音寺が戦いの場になったそう。



今回の最終の食事は「参鶏湯・サムゲタン」。ホテルで人気のお店を尋ねたら、即、「秘苑」。新濟州のホテルからタクシーで約10分。店頭を飾る店看板が格式を物語る。



秘苑の参鶏湯は他の店より量が多い。一人一つで注文して、きょうだい三人、あまりに満腹すぎて、いったん近くのカフェで休憩。韓国も新しいお店はオシャレ、スタイリッシュ。ハルラ樹木園門前のロケーション。



2016/9/6 空港でみた光景 (火)

なんだか異常な暑さ。昨夜関空に着いて、外へ出た時の蒸し暑さ。チェジュも暑かったけど、朝晩は少しひんやり。大阪へ帰ってきた感。

今年も出かけたお墓の草取り行事。旧暦8月15日に前に親戚一同でやる恒例行事。今では、代行サービスの利用も多いとか。

高齢者ほど、お墓のことは気になるけど、体がきかない。若い人はそれほど思い入れはないけど、やらないわけにもいかない。

日本から来ているというと、たいていの人は、エライとほめてくれる。大古い風習を残しているチェジュでも、やらない人が増えたとのこと！

ともあれ、やれるうちはやろうときょうだいで言い合い、草取り前後のグルメめぐりを愉しむ。

そうして行く先々で多いのが中国からの観光客。以前は日本語表記だったものが、今は中国語。店員も中国語で話しかけてくる。

一時さかんに奨励していた不動産投資も、法的に制限することになったというほど、中国の人の投資が進んだ。

「そのうち、チェジュ道民自体、世界文化遺産になるんかないか」と自分たちで言っているとおばさんが話していた。

観光で潤っている面もあるので、痛しかゆし。空港での光景がそれを物語る。傍で見ていて、やれやれ。

街なかで大量に購入した免税品。空港で受け取り、その場でいっせいに包装をほどもき、まとめ始め、あたりにゴミをちらかす。

人によってはそのまま、ほっておく。それが一人は二人ではないから、掃除係の人たちも大変。

かつて日本の観光客も海外旅行で、今では考えられないような振る舞いをした人たちがいる。

シンガポールのビトンショップで、着いたばかりの荷を店員がほどもきや否や、バックを奪い合う日本人観光客の集団を見たことがある。

少し離れたところにいたので、店員たちの呆れた顔とあざ笑うような視点が印象に残っている。

一個人としても、国としても、成熟するということは大事だ。昨日みたような光景は何年ぐらいすると無くなるだろうか。

2016/9/10 いぶし銀の輝き
(土)

今日はさわやか。朝も涼しかった。いい季節になってくる。来週は十五夜。その次の週は秋分。そろそろ彼岸花も咲き始めるか。

松原での女性創業塾が昨日から始まった。いつもながら、受講者自己紹介を聞いて知る、各自各様に一つの転機、節目、分岐点。

「受講を思い立った自分のアンテナを絶対に無にしないこと」。開講一番、開口一番に言うこと。大抵のセミナーで冒頭に同じように話す。

何かしら思うところがあって受講する。そこには同じ仲間がいる。期間中は気持ちも高まる。やる気が漲る。

一方で創業は未知の世界、新しい考え方、行動様式を自分に課す必要がある。その大変さもわかってくる。

仲間がいて意気揚々の受講期間が過ぎ、間があくほどに、段々と気おくれして、億劫になる。まっ、いいか、となってはいけない。

今日の朝刊、本の広告に目にいった。老いて、いぶし銀の輝き。

「老いはみんなに訪れるけれど、成長は望む人にしか訪れない。88歳の現役モデル-人はいくつになっても、美しい」(ダフネ・セルフ)

2016/9/21 思いを届ける
(水)

台風一過、まだ曇り空。気温は昨夜から低く、このまま秋めくのかと思うと、来週はまた30度近い日があるそう。それでも明日は秋分。日の出も遅くなってきた。

9月は例年何かと慌ただしい。旧盆がらみの私的用事が2つ入り、ただしく時間がすぎる。一つはチェジュ行き。親戚一同でやるお墓の草取り行事への参加。もう一つは、旧暦8月15日朝の祭事。

今年のチェジュ行き。いつもと同じような準備作業に加えて、渡航前日に手紙を一つ書いた。祖父母のお墓に手向けるつもの。昨年の思いを思いを形にしたかったのだ。

4年前、生まれて初めて祖父母を身近に意識する大きな出来事があった。両親を感じ、思うのと同じような感覚、認識を抱いたのだった。まったく思いもよらなかったこと。その恵みにどれほど感謝したことか。

昨年の草取り。みなで一緒に汗が流し、きれいになったお墓にお供えをし、礼をして、次の墓へ移動していく。皆は順にその場を離れていくのだけど、同じように行ってしまうのは物足りない気になった。

声に出して、何か語りかける。そういうことでもしたくなくなった。でもしなかった。代わりに墓石を右手でそっと撫でながら立ち去った。握手した手と手をそのまま伸ばして「さよなら」でもするように。

今年はちゃんと言葉にしようと思った。横長の和紙の便せん一枚に縦書きで思いをつづった。当日、墓前に供え、親戚の長が読み上げ、燃やして、天と地にメッセージを届けた。気持ち、おさまる。

2016/9/23 グランフロント
(金) 西壁面に夕影



2016/9/26 今から読み始め
(月)

またまた暑い。夏服をしまいかけていたのに、また出した。曇りや雨が続き、むし暑い。きれいに晴れたのはいつだったか。朝の地下鉄車内、窓に映る左隣の女性は首にマフラー、右隣りは半袖のブラウス。

日中はまだ暑い、朝晩は涼しい。遠回りして公園へ足をのぼそうという気にもなる。24日、クレオ東館へ向かう途中、大阪公園を30分ほど歩いた、彼岸花を探しながら。

書店には来年の手帳がそろい始めた。例年まずはジャバラタイプの年間カレンダーを先に買う。片面6カ月が一度に見渡せるもの。直近のことに気をとられやすいから、流れを見られるようなものが要る。

買ったなら、やることがある。まず二十四節気を小さく書き足す。次に旧暦の各月の1日と15日を加える。そして、法事とその準備の予定を入れる。他に2項目を付け足して、これで来年用として使うものになる。

この作業をすると、視線は新しい年に向かう。2016年も残り三ヶ月。2016年度は後半。これまでの流れが、これからどう流れるか。毎年この時期から年明け1月にかけて、気にとめること。

新しい年を迎える自分なりの儀式。それに4カ月ほどかけていることになる、他のことをしながら。そうでないと、流れは読めるものでもない。さて、来年の立春前頃には、どう読み終えているだろう。

2016/9/28 東洋陶磁美術館 打ち合わせの予定が、先方の勘違いで翌日だった。時間が空いたので、本町から淀屋橋へ引き返し、東洋陶磁美術館へ行った。つかの間、アートな時間をすごした。デフォルトモードネットワークが効いただろうか。



2016/9/30 普遍的なもの (金) 今日は晴れたと思ったら、夕方近くになり、また曇ってきた。明日はまた雨か。9月はずっとこんな天気だった。明日から10月、はやく秋晴れを満喫したい。

仕事柄、いろいろな人を出会う。仕事の合間の雑談も、話題はさまざま。時に金言を教えてもらうことも。『女性は男性を大地につなぐ役割』。精神科医の大先生の言葉だそう。まるで禅師のよう。

「FBにはコンサルタントがいっぱいですよ」。子育て中もキラキラ輝く女性起業家！と誘い、けしかけ、高額なセミナーへと招き入れる。そのコミュニティーに入ると、簡単には抜け難い。まるでマインドコントロール。

「最近はグループワークばかりで、少々うんざり」。企業研修、聴くばかりもツライけど、グループワークも発表の落としどころとプレゼンの差をみるだけみたいな・・・と会社員。体験型も刷新が必要な段階のよう。

お祝いのカードを買いに梅田阪急へ行ってら、ギャラリーで「篠田桃紅」展をやっていた。せっかくだから観た。104歳の現役美術家。インタビュー映像が流れ、「普遍的なもの、それが大事」。肝に銘じます。

